

事業所の概要表

(令和 3 年 8 月 1 日現在)

事業所名	グループホームタ日館					
法人名	特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブひと					
所在地	愛媛県新居浜市萩生2720番地の1					
電話番号	(0897) 40-3444					
FAX番号	(0897) 40-3444					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成 12 年 4 月 18 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input checked="" type="checkbox"/> 平屋 (1) 階建て () 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	1 ユニット		利用定員数 6 人			
利用者人数	6 名 (男性 0 人 女性 6 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	0 名	要介護2	1 名
	要介護3	1 名	要介護4	1 名	要介護5	3 名
職員の勤続年数	1年未満	3 人	1~3年未満	3 人	3~5年未満	1 人
	5~10年未満	1 人	10年以上	2 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 3 人		介護福祉士 7 人			
	その他 (初任者研修)					
看護職員の配置	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	中萩診療所 加藤医院					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 20 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	2.6~3.1万 円	
敷金の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有	60,000 円
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	円 償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
食材料費	1日当たり	1,200 円 (朝食: 円 昼食: 円)
	おやつ:	円 (夕食: 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	・ 水道光熱費	500 円
	・	円
	・	円
	・	円

家族会の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (開催回数: 0 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 12 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	0 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input type="checkbox"/> 市町担当者 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input type="checkbox"/> 民生委員 <input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input type="checkbox"/> 近隣の住民
	<input type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input type="checkbox"/> 家族等	
	<input type="checkbox"/> その他 ()	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和3年10月4日

【アンケート協力数】※評価機関記入

令和3年3月11日 集計

家族アンケート	(回答数)	5	(依頼数)	6
地域アンケート	(回答数)	6		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870500638
事業所名 (ユニット名)	グループホーム夕日館
記入者(管理者) 氏名	高橋 光子
自己評価作成日	令和3年 8月 1日

<p>【事業所理念】※事業所記入 のんびり気ままに過ごしましょう “住みなれたところで最期まで”</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 職員は「居室は利用者のプライバシーの場所である」ということを理解し、居室へ出入りする際は、声掛けする等の配慮をしている。 自然な日常の様子を毎月の「たより」でご家族にお伝えしている。 介護実施状況を毎日記入し、スタッフがケアプランにそって支援する様、努めている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 地域の一斉清掃や自治会館の掃除には、職員が参加している。 住宅地の中にある古民家のグループホームで、日常的に隣り近所の人と挨拶を交わしたり、野菜などの希望があればある。 近所の人が、メダカをくれて、毎朝、エサをやりに来てくれる。 6月に事業所の看板を設置した際には、近所の人の家の敷地内に設置させてもらった。 週3回、午前中の入浴を支援している。長さや温度はその都度聞いている。「午後から入りたい」などの希望があれば応じている。 歌が好きな利用者が多く、職員がピアノやギターで伴奏して、みんなで歌う機会をつくっている。</p>
---	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。 c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。 d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。 e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎ 本人の希望や意向の把握を日々の記録に記載し、職員間で共有できるようにしている。 ◎ 意思表示の困難な方でもご家族等に本人について伺った情報や、日々の言葉、表情等で得た情報を職員間で話し合い、少しでも本人の望む生活が出来るように支援している。 ◎ 入所前のアセスメントだけではなくサービス担当者会議でご家族等に話を伺っている。 ◎ 本人に伺った暮らし方への思いをアセスメントシート、モニタリングシートに記録し共有している。 ◎ スタッフ全員で意識の共有を図っている。	◎				○	まずは、入居前に利用者宅などを訪問して、本人、家族の希望を聞き、「入居時の申し合わせ」「入所前アセスメント」シートに記入している。入居時に再度聞いてアセスメントシートに記入している。アセスメントシートの情報は、介護計画見直し時期に更新している。
2	これまでの暮らしや現状の把握	a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。 b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。 c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。 d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等) e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎ 本人やご家族、在宅サービスを利用していた時のケアマネジャーに伺い今までの生活環境を把握している。 ◎ 定期的にモニタリング等を行い現在の状態の把握に努めている。 ◎ 個人日誌に一日の様子を記入し本人の時間ごとの様子を共有している。 ◎ 個人日誌で本人の様子をスタッフ間で共有している。要因が何かを職員同士カンファレンスで話し合い、支援内容を決定している。 ◎ 個人日誌で把握。	◎				◎	利用者や家族から聞き取り、生活歴、趣味、特技、友人関係、地域との関係等の情報をアセスメントシートにまとめている。姪や孫から聞いた情報も記入していた。
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。 b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。 c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎ サービス担当者会議で検討、確認している。 ◎ 得た本人の情報を基にスタッフで支援の方法を検討している。 ◎ 検討した内容を基に課題を明らかにし、サービス計画書に反映している。	◎				○	サービス担当者会議(カンファレンス)は、利用者本人も参加している。家族には、ケアマネジャーが事前に希望などを聞いている。
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a 本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。 b 本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。 c 重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。 d 本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎ 本人や家族に意向など伺い、計画書に反映している。 ◎ カンファレンスの意見を計画書に反映している。 ◎ 意思疎通が困難な利用者に対しても今までの生活歴を家族等から伺い計画書に反映している。 △ 重度化により地域の方との関わりは少なくなっている。	◎		◎		○	医師や訪問看護師の意見を計画に反映している事例がみられた。 便秘気味の利用者について、本人の以前の便秘対策について家族から教えてもらい、介護計画に採り入れ支援しているケースがある。
5	介護計画に基づいた日々の支援	a 利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。 b 介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。 c 利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。 d 利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎ スタッフ全員に介護計画の内容の把握を徹底している。 ◎ 介護計画を日々確認しながらケアを行いカンファレンス等で状況の確認を行っている。 ◎ 本人の一日の様子を個別に記録している。 ○ ケアの中で職員が気づいた事等は個別に記録している。	◎				◎	介護計画についてのカンファレンスは、ほぼ全員の職員が参加している。 介護計画は、ケアプラン実施状況表ファイルに挟み、重要なところは、蛍光ペンで色をつけて共有している。 ◎ ケアプラン実施状況表に、実践できたか、どうかを記号(○△×)で記入し、その結果どうだったかをサービス内容の実施状況のコメント欄に記録している。 ◎ ケアプラン実施状況表、また、介護記録や支援経過記録に記録している。 介護記録は、利用者の言葉を青色、気になることを赤色で記入している。 ○ カンファレンス時に話し合っ、サービス担当者会議の要点に記録している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	状態の大きな変化が無くても、半年に一度はサービス担当者会議を開催し見直しを行っている。			◎	ケアマネジャーが責任を持って時期を管理しており、6ヶ月ごとに見直しを行っている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月に一度はモニタリングを行い現状確認を行っている。			◎	月1回、ケアマネジャーがケアプラン実施状況表や支援経過の記録をもとに担当職員と話し合い、モニタリングを行っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人の状態に変化が生じた際は見直しを行い現状に即した計画を作成するよう体制をとっている。			○	退院時など状態変化があった場合に見直しを行っている。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	計画期間終了前や、緊急時にはカンファレンスを開催している。			○	カンファレンス(個々の介護計画見直し時に行う)の機会に事業所会を行っている。緊急案件があれば、その日の勤務職員で話し合っている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	会議ではスタッフ全員が意見を発言できるよう工夫している。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	全ての職員が会議に参加できるよう開催日時等を調整している。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	申し送りに記入し、計画書を確認している。			△	ほぼ全員の職員が参加している。欠席職員には、管理者が口頭で説明している。議事録はあるが、話し合う項目の羅列にとどまっている。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	業務日誌等で情報の共有を行っている。			○	家族からの伝言は、業務日誌の連絡事項欄に記入している。日誌は出勤時に確認し自分の名前欄に確認した日付を記入するしくみをつくっている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	業務日誌を各職員確認後、自分の名前欄に確認した日付を記入している。	○				
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	認知症状があり理解が難しいが、把握を務める努力は継続している。					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	利用者が受動的ではなく能動的に行動できるよう気をつけてケアを行っている。			○	起床時や入浴時の着替えを本人が選べるように場面をつくっている。歌を歌う時には、歌本を数種類用意して、自分の好きな歌を選べるようにしている。	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者個人個人の自己決定権を尊重した支援を行っている。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	利用者全員に画一的な支援を行わず、本人のペースに合わせた支援を行っている。					
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉(げや雰囲気づくりをしている)	◎	利用者の言動や表情を引き出す言葉(げや雰囲気づくりを行っている)				○	歌が好きな利用者が多く、職員がピアノやギターで伴奏して、みんなで歌う機会をつくっている。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	意思疎通が困難な場合でも表情等で伝えようとされている事を見落とさないよう気をつけている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	内部研修を行い、誇りやプライバシーに常に気をつけている。	○	◎	○	内部研修(資料を回覧して、感想を記入する)を行っており、5月の法人・事業所理念、倫理・法令遵守研修時に学んでいる。利用者に対する言葉遣いが気になるような場面があれば、職員同士で注意合っている。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさずさな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	不必要な大きな声かけ等をしないよう配慮して支援している。			◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	プライバシーに配慮し介助を行っている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室は本人の個室であることを職員全員が理解し、居室への出入りは本人に声掛けしたり配慮しながら行っている。				◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	内部研修を行っている。マニュアルを作成し職員間で定期的に確認している。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教える機会をもち、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者一人一人が共同生活の中で役割が持てる様に意識し、していただいた事には感謝の気持ちを声に出している。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	職員全員でグループホームの役割を理解してケアを行っている。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が助け合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者につまづき力発揮してもらい場面をつくる等)	◎	利用者一人一人に合った生活ができる様子を付けている。			◎	トラブルになりそうな時の声かけや関わり方などについて、カンファレンス時に話し合った事例がある。事業所で利用者の看とりに支援した際には、他の利用者もその方のお別れができるような場面をつくっている。	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	利用者一人一人の性格を理解し、トラブルが起きた場合でも当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	本人や家族等に生活歴をアセスメントするだけでなく、グループホーム入所後に出来た人間関係についても把握するよう努めている。				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時や家族との会話の中で把握するように努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外出や面会を制限しているため支援できていない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会制限がある為、窓越し面会にて対応している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、グループホームでの生活が多い。庭の散歩程度は行っている。	×	△	△	春にはお花見に出かけ、桜を見ながらおやつを食べた。庭を散歩したり、草引きをしたりするようなこともあるが、外出する機会は少ない。今後もさらに、ドライブや散歩など、状況をみながら気分転換を図るような取り組みを工夫してほしい。 車いすの利用者も同じように支援をしている。病院受診時のみの外出となっている人がいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	実施できていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	敷地内での散歩はしている。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	ドライブのみにとどまっている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症について内部研修を行っている。				おやつ作りは、利用者個々に、できることを行う場面をつくり、職員は見守ったりできないところを手伝ったりしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能低下しないよう生活リハビリを意識して支援している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	自立支援を意識し、利用者一人一人持っている能力が発揮できるよう支援を行っている。	△		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	生活歴や習慣などをアセスメントしている。				事業所便りに、新聞折りや服の繕いものをする利用者の様子を載せていた。調査訪問日、利用者は、職員と一緒に廊下のモップがけや洗濯物干しを行っていた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	現在の状態を把握し、本人が共同生活において役割が持てる様に取り組んでいる。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域に出ることを意識して支援しているが、地域の参加ができていない。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	一人一人その日の気分に合わせて服装を決められている。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。 衣類は家族が持参している。訪問美容師の来訪前に、髪型について利用者の好みや家族の希望を聞いておき、職員から伝えてカットをしてもらっている。訪問美容師は長年来訪しており、利用者と馴染みとなっている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪型や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	個人のクシや鏡を用意されている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	ゆっくり話を伺ったり本人本位で生活できるよう支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	一人一人その日の気分に合わせて服装を決められている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	言葉遣いに注意し、プライドを傷つけないよう声掛けを行っている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご家族の希望で、訪問美容でカットしている。				
		g	重度な状態であっても、髪型や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	訪問美容等を利用し状態が悪化しても整容が保たれるよう支援している。			○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	季節に応じた食事を提供したり、利用者との会話やコミュニケーションの場と考えている。				買い物は職員が行っている。 献立は、その日にある食材で主に職員が決めている。 利用者は、味噌汁作りと、野菜の下ごしらえや食器洗いを行っている。 近所の人から野菜の差し入れがある。 最近では芋炊きや栗ご飯を作って喜ばれたようだ。 節分には恵方巻、春には菊ご飯、土用の丑の日には鰻、大晦日には年越しそばなど、季節や行事に沿った献立を立てている。 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。 台所と居間とは少し離れているが、音やにおいが感じられる。職員は「今日のメニューはなんだろうね」と利用者と話している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買物などは行っていないが、下ごしらえなどできることはされている。				
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	もやしの根切り、えびの皮むき等一緒に出来ることはされている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居前のアセスメントだけでなく、日々食事について伺っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節に応じた食事を提供したり、利用者の好みの物を取り入れている。				
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	利用者一人一人の身体状態を把握し、出来るだけ自立して食事が出来る様努めている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	個人の湯飲みや茶わんを利用している。			評価困難	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食べながら様子の見守りを行っている。			評価困難	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	事業所内の台所で調理を行っているため、調理の音やにおいが居間にも漂ってくる。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事量、水分摂取量を記録し、量の確保が出来る様にしている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分の形状を変えたり、本人の好まれる食事を提供し、低栄養や脱水を防ぐ工夫を行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	メニューを記録し偏りがないように配慮している。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食中毒の予防の為に衛生管理を行っているとともに、感染症等の内部研修を行っている。				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	内部研修を行い、口腔ケアの重要性を学んでいる。				口腔ケア時に目視で確認し、異常があれば受診につなげている。 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケア時に健康状態を確認し個人記録に記入している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	今後、訪問歯科利用時に助言をいただく予定。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	見守りや一部介助により適切に行えるよう支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	見守りや一部介助により適切に行えるよう支援している。			評価困難	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異変がみられた時にはご家族に連絡し歯科受診をお願いしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	理解し、トイレでの排泄が出来るだけ継続できるよう支援している。				職員から「パッドを使う必要があるのでは」等と意見があれば、職員で話し合う場を持っている。現在、トイレ誘導のタイミングなどを工夫して様子を見ながらパッドの必要性について検討している事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	腹痛や食欲低下になり体調不良等を起こす事を理解し話合っている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個人記録に記入している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	カンファレンスで話し合い、その人に合った対応をしている。	○			
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	カンファレンスで話し合っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者に合わせて声掛け等を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人におむつの好み等は聞いていないが、どういう時間帯にどのようなものを使用するかなど、カンファレンス等で話し合っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	状態に応じて使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	便秘に良い食べ物や飲み物を提供している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴の曜日や回数は決まっているが入浴時間、温度などはその方に合わせてゆったりと入浴してもらっている。	○			週3回、午前中の中入浴を支援している。長さや温度はその都度聞いている。「午後から入りたい」などの希望があれば応じている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	個浴でゆっくりリラックスできるように支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来ない部分に限り介助を行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いないで気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いない程度に清潔保持を行っている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	健康状態を毎日測定し入浴の可否を決めている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	個人記録等に記入している。				現在、1名が安定剤を服用しており、医師と相談しながら支援している。「眠れない」と言う利用者には、温かい牛乳を用意したり、ゆっくり話を聞いたりして対応している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	生活リズムを整える様工夫を行っている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中の過ごし方と睡眠の関係を把握し、出来るだけ薬に頼らないよう支援しているが、状況に応じ、医師や家族と相談し必要時には薬を処方される場合がある。		○		
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	一人一人の生活パターンを把握している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話や手紙が出来る様支援している。				/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人に不安がある時、ご家族等に電話を取り次いだりし、安心してもらえるようにしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	いつでも電話が出来る旨をお伝えしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	希望される方は電話をかけられている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話をかけることについて、家族に協力をお願いしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	大切さは理解しているがお金を所持している方はいない。						
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、外出はできていない。						
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	実施できていない。						
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	実施できていない。						
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	過去の利用者とは話し合いを行い、所持されている方もおられたが、現在の利用者さんはお金を所持している方はいない。						
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に説明して、毎月の支払時には金銭出納帳に家族にサインを頂いている。						
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	本人や家族にニーズを伺い、利用者本位の支援を心掛けている。	○		○	病院受診は、職員が付き添い支援している。		
(3) 生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	気軽に出入り出来るような雰囲気作りを行っている。利用者と草引きや花を植えたり玄関を明るくしている。	○	○	◎	事業所は、住宅地の少し入り組んだところに立地しているため、6月には、事業所周辺3箇所に、事業所の看板を設置した。古民家の事業所で、庭には季節ごとに楽しめる花木がたくさんある。玄関前でメダカを飼っている。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない。殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそっくり再現していないか等。)	○	家庭的な雰囲気作りを心がけている。また行事の飾り「正月飾り、雛飾り、クリスマスツリー」など利用者と飾り付けている。	◎		○	評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日掃除を利用者と行っている。				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居間の掃き出し窓から見える景色(花など)を見て季節を感じられるようにしている。					評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	本人の生活リズムに応じて居場所づくりを行っている。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	トイレや浴室は共用空間から離れている。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居の際にご家族と相談し今までの生活で使い慣れたものを使用している。	◎			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかるところ」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	出来るだけ自立した生活を送れるよう入居時には自室に自印をつけ、自分の部屋がわかるようになれば外している。手すりを設置し、一人で異動できるようにしている。				○	入居前にシルバーカーを使用していた人も、事業所内では、手すりや壁面、椅子を伝って移動しており、職員はそれを見守っている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱を招くような物品は置かないよう工夫している。						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほろろ、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	入居の際にご家族と相談し今までの生活で使い慣れたものを使用している。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	出入口、玄関等は施錠しないようにしている。自由に出入りされている。	◎	◎	◎		日中、玄関は施錠していない。内部研修時(身体拘束について)に学んでいる。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	散歩に出る方もいるが、ご家族も理解している。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけるなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	日中は鍵はかけていない。外に出られると見守りを行っている。						
(4) 健康を維持するための支援											
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントを行い、全員が把握している。						
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	個人記録に記入している。						
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	訪問看護や担当医に相談、報告を行っている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	ご本人・ご家族の希望がある場合には受診できるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	ご本人の状態を伝え、かかりつけ医の受診が継続できるようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	本人、家族が希望する受診方法を行い、結果の内容によって、職員への伝達は合意を得ている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際、本人に関する情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	早期退院できるように、病院関係者との情報交換や、相談に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	訪問診療時に利用者の状態について報告、相談し医師との関係作りを行っている。入院時には早期退院に向けて相談している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	訪問看護師に相談したり、日々のバイタルを連絡し、必要に応じて折り返し連絡があり支持を受けることがある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護ステーションとは24時間いつでも相談できる体制がとれている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々の健康状態を情報交換し、変化が見られる利用者については訪問看護ステーションの看護師に相談し、必要であれば受診等を相談している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	処方箋を確認しながら、服薬管理を行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬カレンダーを使用し、服薬後は服薬助を行った職員とは別の職員が確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	新しく処方された薬や変更された薬については、薬剤師にお聞きし副作用に注意している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	日々の状態や変化を記録し、変化が著しい場合は訪問看護ステーションの看護師等に相談している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に終末期のあり方の確認を行っている。状態の変化に応じて家族と話し合いを行っている。				入居時に、家族から看とり支援の希望を聞いている。また、状態変化時に、その都度家族と話し合いの場を設け方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	ご家族の希望に基づき今後の対応等について医師とも話し合いを行い、方針を共有している。	○	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	終末期に入る段階で、どのように最期を迎えてもらいたいのか話し合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	看取りにあたり「できること・できないこと」でどのように対応していくかお伝えし、家族の希望を確認しながら理解を得るようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	看取りについてはその都度話し合いの機会を持ち意向を確認するようにしている。医療とも連携を図るようにしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	話を伺ったり、家族が本人にしてあげたい事への協力をしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	研修に参加し、具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアル作成をしている。常に感染症を意識している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	愛媛県感染症センターのホームページでの状況確認や行政からの周知により情報入手している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	愛媛県感染症センターのホームページでの状況確認や行政からの周知により情報入手している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関その他の入り口、トイレ等に消毒用品を設置し手洗い等行えるようにしている。1ヶア1手洗いを心がけている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	ご家族の面会時には現状報告を行ったり、ご家族の話聞く機会を設けている。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 月1回、夕日館便りを送付して日々の暮らしの様子、行事の様子を写真付きで報告している。SNSで普段の様子や髪を切った後の写真を送ってやりとりするケースがある。 行事については、夕日館便りで報告している。設備改修や職員の異動などについては報告していない。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会時間を決めておらずご家族が好きな時間に来ていただけるようにしているが、現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、窓越し面会となっている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	お花見、敬老会、観月祭等開催しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為現在は家族の参加は出来ていない。	×		評価困難	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	面会時には現状の報告を行っている。毎月の「便り」は写真をのせて様子をお伝えしている。	○		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	面会時や、ケアプラン作成時などに、ご家族に要望を聞くようにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	家族との話し合いで何が大切なのか、家族との関係の理解に努めている。				
		g	事業所の運営上の事務や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事等はご家族にも案内している。その他も協力を得られるようにしている。	△		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	行事や運営推進会議の場で家族同士の交流が図れるようにしていたが、現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為開催できていない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	リスクについては入居時に説明を行っている。その人らしい暮らしができるよう家族等と話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来訪時にこちらから声かけを行い、気がかりなことや意見、希望をお聞きするようにしている。また連絡も行っている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約の際には具体的にお話し、ご家族にわかるよう説明している。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去事例はないが、家族と話し合い退去時支援は行いたい。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	変更時には同意書を作成し説明を行い同意を得るようにしている。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	法人の総会にて、事業所の目的等を説明し理解を得られるようにしている。		○		地域の一斉清掃や自治会館の掃除には、職員が参加している。 住宅地の中にある古民家のグループホームで、日常的に隣り近所の人と挨拶を交わしたり、野菜などのおすそ分けがある。 近所の人が、メダカをくれて、毎朝、エサをやりに来てくれる。 6月に事業所の看板を設置した際には、近所の人の家の敷地内に設置させてもらった。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	自治会に加入し、一斉清掃や、自治会館の掃除などに参加している。		△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	利用者の散歩を通じて声をかけたり見守ってくれる地域の人がいる。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、面会制限があり現在はできていない。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	洗濯物を干す時や施設内の散歩時等、隣の方や道を歩いている方にあいさつをしている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	行事等の時は一緒に参加していただける時もあったが、現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、出来ていない。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	本人がこれまで大切にしてきた場所・馴染みの場所に一回でも多く行き続けることができるよう支援していきたい。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	公民館長に運営推進会議の会員になっていたが参加されていたが、現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、運営推進会議は中止している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	以前は毎回全員ではないが、ご家族の参加、地域の人たちの参加がある。	○		×	この一年間は、運営推進会議を行っていない。 外部評価実施後の運営推進会議時に、外部評価の結果について口頭で報告しているが、目標達成計画については報告していない。自己評価については報告していない。 この一年間は、運営推進会議を行っていない。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	×	以前は利用者の状況や行事について報告、外部評価への内容と取り組みについて報告していた。			×	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	×	意見は少ないが、話しやすい雰囲気づくりをこころがけ意見を聞き出すようにしていた。		◎	×	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	次回の日取りなど意見を聞き、出席しやすい日程で行っていた。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	市の担当者には報告している。				
IVより良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるように事業所内の見えやすい場所に掲示している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	事業所内の見えやすい場所に理念を掲示している。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者から代表者に職員の力量や研修計画を報告し、スキルアップができる体制を取り組んでいる。				法人代表者は野菜や花を持って度々事業所を訪れており、職員と話しをしている。管理者や職員は普段から相談をしている。必要物品の相談や運営についても話しやすいようだ。法人から職員に、有給休暇を積極的に取得するよう伝達がある。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	誰でも研修に取り組めるように勤務変更を行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	各自が向上心を持って働けるよう条件の整備に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、現在はできていない。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者からの報告を受け、必要な修繕や勤務状態の改善に努めている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	内部研修にて理解に努めている。				5月の内部研修(虐待防止及び身体拘束について)時に学んでいる。職員は、不適切なケアを発見した場合に、管理者やケアマネジャーへ報告することと認識している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	カンファレンスにて情報共有し、その都度振り返るようにしている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	内部研修で学び理解し、虐待や不適切なケアにならないよう日頃より意見交換をしている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	代表者が週に何度か施設に訪れ、様子確認し、管理者は職員の様子観察を日常的に行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束とは何か、内部研修している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	カンファレンスにて情報共有を行い、その都度振り返るようにしている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	ご家族からの要望はないが、もし要望があっても必要性を十分に話し合ってから実行する。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	内部研修し、制度や、利点など学び理解している。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談があれば助言や案を提供している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要であれば地域包括支援センター等に相談するようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し、周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修で学んだ内容を内部研修している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書・ヒヤリハットを作成し、事例を検討、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	カンファレンスや記録から、事故の防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情の窓口を作成しており、契約時に説明している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情の対応はその都度行っている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	職員間で話し合い対策案を検討し、家族との関係づくりを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	個別で聞くことが主になっている。			○	個別に聞いているが運営に関する意見、要望等は出ないようだ。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時に個別に聞くようにし、意見箱を設置している。	○		○	家族来訪時や電話で聞いている。「事業所の場所が分かりにくい」という意見があり、6月に事業所周辺3か所に案内の看板を設置した。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	随時行っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	週に一度は足を運び意見や要望・提案等を直接聞く機会がある。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	カンファレンスなどで、意見や提案を聞き、運営について検討している。			◎	日々の中やカンファレンス時に聞いている。職員から「感染症対策の一つとして、居間のテーブルを大きいものにして距離を保つようにしてはどうか」という意見があり、新たにテーブルを買い替えたような事例がある。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	管理者、職員全員が自己評価に年に1回取り組み、代表者に報告している。				
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自分たちの出来ていないところの振り返りに活かしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	事業所会で話し合い、目標が実現できるよう取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議の場で外部評価の結果を報告はしているが、モニターはしていない。	○	○	×	外部評価実施後の運営推進会議時に、口頭で評価結果を報告している。自己評価実施後の評価結果の内容や目標達成計画についての報告はしていない。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内での話し合いで終わっている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成しており、周知している。				
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に2回の訓練を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、前年度は1回のみとなった。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に確認、補充をしている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	運営推進会議で防災について話し合っていたが、現在は開催できていない。	△	○	△	3月に職員と利用者で避難訓練を行った。近所に住む、元利用者の家族に、災害時の協力を依頼している。この一年間で、災害対策について話し合うような機会は持っていない。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の防災訓練に参加し情報交換に努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	地域に向いて講師をすることはないが相談を受けた場合には助言を行う事がある。				近所の人が訪ねて来て、家族の介護についての相談に乗ることがある。 福祉避難所に指定されている。地域活動を協働しながら行う取り組みは行っていない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談を受けた場合は、今後に繋がるよう、同法人内の居宅介護支援事業所に紹介している。		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	していない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	ワークキャンプの受け入れを予定していたが新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、受け入れできていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域清掃に参加している。			×	